

平成艸紙



おりおりの記

90歳まで生きられるとしたら3分の2、80歳までなら4分の3を終え、これからどのような人生を歩んでいこうか考えています。

昨年、還暦年の区切りとして浄土宗の五重相伝を受け、お念仏の教えを学んでまいりました。厳しい5日間の修行でしたが、終了時、仏教徒名（戒名）を頂戴しました。これだけで極楽浄土への道が拓けたとは思いませんが、今も毎日お念仏（南無阿弥陀仏）を唱えています。しかし株式市場を見る時「お念仏唱えたら上がるかなあ？」などと考えている不心得者には極楽より破門の方が近いかも…。

さて私は人生最後の食事は「卵かけご飯」、辞世の句ならぬ最後の言葉は「俺の人生面白かった」で締め括りたいと思っています。今までの人生に特に不満があるわけではありませんが、このままの延長では少々物足りなく、ぜひ何かに挑戦したいと画策しています。

まずビジネス面では「起業」です。今の仕事を引退してからになります。物造り業に携わりたいと思います。一から会社を起こしてもいいですし、M&Aである程度地盤のある企業を引き継いで突っ走ってもいいです。出来れば、付加価値のある品物を国内で生産し国内外で販売したいと思います。諸先輩からは「メーカーのことを知らな

これからの人生

廣田証券
取締役社長

廣田 元孝

い人が言う戯れ言だね、上手くいく筈ないよ」と言われています。ベンチャービジネスの経営者と接して、成功することがいかに難しいかもわかっていますが、単なる夢で終わらせたくないと思っています。



ビジネス以外では「お茶」です。裏千家御家元からお茶会に誘われたのがきっかけです。何も知らない私は、人の真似をして蹲踞を使い躡口からお茶室に入ります。お床拜見で字の読めない掛け軸を見た後、亭主が点てて下さったお茶を頂戴します。濃茶、薄茶、点心、あるいは懐石料理を頂いている時間は、ゆっくりと流れ、幻想的でさえあります。お茶は日本の美の集大成と聞きます。非文化人の最たる私ですがこれから勉強する所存です。

以上駄文を連ねましたが、「起業」で日本経済の繁栄に少しでも寄与し、「お茶」で日本文化を継承する数寄者の一人となれるよう精進していきたいと思います。